

た ち ば な 新 聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あきる野市小川101
電話 042-558-2663



宝清寺の年中行事

二月節分	厄除け・星祭
三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり(灌仏会)
四月八日	オリエンテンプリンク
七月十七日	お盆塔婆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お仏式法要
十二月初旬	お盆金締札

明けまして おめでとう ごぞうひます



素晴らしい年でありますよう祈念しております

コロナ禍に振り回される一年が終わり、新しい年を迎えましたが、今後も繰り返し変異した病原体と戦い続けなければならぬであろうことが、現実になりつつあり、円安・物価高に苦しめられる生活が懸念されます。

昨年は、強国が他国を侵略して自国の領土にしてしまう暴挙が起こり、国連も抑止不能の状況にあり、元総理大臣が大衆の面前で殺害されるなど、理不尽な事故に巻き込まれて命が脅かされる事例が日々報道されています。

こうした状況はまさに安心と安全、平和を求める社会全体に、まるで、脅威の火の粉となって降り注いでいるようです。昨年大河ドラマ『鎌倉殿の13人』は、鎌倉幕府が誕生する過程で繰り広げられる権力の座を巡る駆け引きを、その勝者として北条得宗家の祖となった北条義時を主人公として展開するド

住職ひと口法話 第七十一回

新しい年を迎え、初日の出を拝まれた方も多くと思います。ある日、海に住む男・山に住む男・街に住む男が一緒に居酒屋で酒を飲み、太陽はどこから昇るのか議論となり、海に住む男は「太陽は海から昇る」、山に住む男は「太陽は山から昇る」、街に住む男は「太陽は屋根から昇る」と、口論になった。その様子を見ていた居酒屋の女将は、「何言ってるのよ。太陽は東から昇るのよ」と答えた。四人の男達の答えはどれも、それぞれが主張する一面だけ見れば真実ですが、本当は「太陽は動かず、地球が回っているだけ」と言うのが真実です。

私は女子高校の国語科の教員として奉職していましたが、その当時はベビーブームで生徒数も多く、同期で採用された教員は十二名でした。放課後、四、五人で喫茶店に行き、よく議論をしていました。

ラマで、視聴者も多かったようで、私も毎週楽しみに視聴していました。

その鎌倉時代、社会的混乱を憂えた日蓮聖人が鎌倉幕府の北条執権に「人々の命を第一に考える政治の実現」を求めて、文応元年(一二六〇年)に『立正安国論』を奏進しました。その『立正安国論』の一節に

「蒼蠅驥尾に附して万里を渡る」とあります。蒼蠅(そうよう)とは青バエのこと、驥尾(きび)とは一日に千里を走る駿馬の尾のことで、小さな羽虫でも良馬の尻尾につかまっていれば、考えられないような距離を進むことができるという意味です。

日蓮聖人自身を蒼蠅に例え、驥尾を法華経と位置づけて思いを綴った箇所ですが、『立正安国論』奏進から十三年後、日本各地で天変地異が発生、自然災害、疫病の流行、大小武家の争い、加えて農民同士の争いが多発、そうした現実をご覧になられた日蓮聖人は、文永十一年(一二七四年)に身延の地から、弟子や檀那に手紙を送ります。

ある日、「本を読んだ人間が偉いのか」、「飯を食った人間が偉いのか」、つまり、学問を積んだ人間と経験を積んだ人間と、どちらが偉いのかを五、六時間議論したが結論は出なかった。

これはある面、どちらも真実であり、後日、同じメンバーで話した時、一人が「この間の話は学問を重ね、経験を積み、それを現実にかかすとこの間の話ではないか」と、結論づけた。集まったみんなは「そうだ、それが真実だな」と賛同した。

最近、いろいろなグループが喫茶店で会話し、意識を高め合ったり、居酒屋で上司が部下を育てる機会等が減ったようだ。それだけではなく、世界の情勢や政治も、「自己」の利己的な「真実」に固執して、その虜になって、他人の考えを尊重することなく否定し続けて、対立関係を助長している傾向が見られる。その姿勢からは何の「解決」も「進展」も期待できない。

「白黒つける」という慣用語があります。「是非・善悪・真偽など、物事に決着をつける」意味ですが、人間関係には馴染みません。新しい年、様々な問題について、他人の意見に耳を傾け、他を尊重し、話し合う姿勢を大切にしたいものです。

その手紙が『顕立正意抄』で、日蓮聖人は文中に「国土乱れん時鬼神乱る 故に万民乱る」と、改めて『立正安国論』の予言が的中していること、思いをいたし、『立正安国論』の正しさ、尊さを説かれ、各自の自省と信仰の増進を求められました。

七五〇年前の日蓮聖人の警告「万民乱る」は、今日の私たちに示された強い警告であると改めて痛感いたします。私たちの周囲を見渡してみると、自分さえ良ければ…、自分の考えこそ正しい…、自分は正しいことを行っていると信じ込む我欲の行いは、昨今の風潮そのものだと感じます。人生や社会の道筋を示してくれる正しい教え、人生を豊かにしてくれる良き師、社会を安心・安全に導く指導者との巡り逢いの大切さを示されたのだと思います。

明治時代の人は「邂逅(巡り逢い)を大切にしたい」ということです。『良き人と巡り逢うことが難しい』ことから、特に、人生の道筋を示してくれる良き人との巡り逢いを重視してました。「良き人」とは、師や友であり、人だけではなく、自分が見聞するもの全てです。

皆様今年一年、「良き人」と巡り逢い、豊かな人生を歩まれることを祈念しております。

樹木葬と天空・友情の郷

第二・三期工事完成 販売開始

宝清寺に樹木葬のお墓はあります。かの問い合わせが多数あり、『樹木葬と天空・友情の郷』、第一期工事で七十二区画を販売したところ、ほぼ完売になったことを受けて、昨年末に第二期工事と同時に着工し総数二一六区画が完成、販売を開始致しました。

中心の屏風絵は日本ヴォーグ社ポーターツインストラクターで、こうてい作家茂登江としてデビューした住職の次女が描いた、お釈迦様、家族、犬・猫のペット、コスモスの絵を彫刻致しました。

南に面した、開放的で美しい自然の景色と四季折々の花と緑に包まれた、癒やされる墓所で眠れます。宗派不問、承継者・管理料不要、四霊まで納骨可能で、ペットも一緒に納骨出来ます。生前でも申し込み可能です。墓所をお探しの方にお勧め下さい。



法華経と私たち 第十五回

安楽行品 第十四

そのとき文殊師利王子菩薩は、釈尊に問うた。「あつてはならないこととです。実に困難なことを菩薩たちは誓願しました。世尊よ、菩薩たちは、後の悪世において、どのようにこの経を説いたらよいのでしょうか。」釈尊は文殊師利に答えた。「菩薩が後の悪世にこの経を説かんとする時は、四つの法に安住して行うのである。一つには菩薩の行処と親近処に安住する。菩薩の行いは、本来、菩薩に適い、菩薩に相応しいのである。忍耐強く、穏やかで、怒らず、動揺しない。また、諸法は如実の相なりと観じて、浅知恵であれこれ詮索しない。これを菩薩の行処という。また菩薩の付き合ひは菩薩に適い、菩薩に相応しいのである。菩薩は国王・大臣、外道の思想家・世俗の小説家、また遊興で身を立てる役者・相撲取り、また賤民・狩猟を生業とするものに近づかない。ただし時よる

しく、これらの人々に請われれば、法を説くであろう。また、声聞乗を求める男女の出家・在家に近づかず長居しない。また女人の歎心を買おうとせず、会釈を返さない。常に座禅を好み、静かな処で心を修める。これを初めの親近処という。また菩薩は、一切の法は空なり、如実の相なりと観じて、ただ因縁により仮象として存在していると見るのである。菩薩はここに住す、これを菩薩の第二の親近処という。二つには、菩薩は人や経の咎を責めず、悪口を言わず、異教を説くものを非難し、欠点をあげつらわず、人の美点を褒めそやさない。菩薩として安らかに住しているからである。三つは、菩薩は一切の衆生を見て大悲の心を起こし、諸々の如来を父のように思い、諸々の菩薩を師のように敬う。また一切衆生を差別せず、平等に法を説く。四つは、菩薩は、衆生は信薄く、知浅く、気まぐれで、

無関心であると知っていても、衆生をして阿耨多羅三藐三菩提を得させると誓って行うのである。

文殊師利よ、たとえ王がいて、権勢並ぶべきものなく、諸国を支配しているとしよう。王は命に従わないものには、兵を起こして征伐するだろう。その戦いで勲功があつたものには田地・金銀など褒賞を与えるが、髻の明珠だけは与えないだろう。これは唯一王の頭上にあるべきものであり、王の印だからである。如来もまたこのようである。法の国土において、如来は三界の王である。従わない諸々の魔王がおり、如来の將兵たる菩薩たちは魔王の軍と戦い、勲功のあるものには法を説いて欲ばせ、禅定、解脱、涅槃の城を与えるが、この法華経だけは与えなかつた。だが髻の明珠を与えなかつた大王が大功に歎び、それを与える時があるように、如来もまたそうするのである。魔王たちを撃退した大功に歎び、信じ難く未だかつて説いたことのないこの経を説くのである。この法華経は如来の第一の法であり、諸経のなかで最も奥が深いのである。みだりに説いたことのないこの法を、今日初めて説くのである」。釈尊は重ねてこれを語らんとして詩句をもつて唱えた。

清掃のプロ十四人がボランティアで

宝清寺建物のガラス磨き



昨年よりエアコンのクリーニングングでお世話になっている、武蔵村山市に本社のある、かもしたハウスクリーニングの店長嶋下政明氏(左写真)から、「年二回お寺のガラス磨きをボランティアでさせて貰っているのですが、宝清寺さんは如何ですか」との申し出があり

お願いしました。ボランティアに参加した人達は、掃除機・モップ・洗剤・布など全て持参され、本堂・たちばな会館・水谷庵・寺務所・庫裏の全ての建物のガラスを磨いて頂きました。

普段から寺務員も清掃をしています。が、寺務員や家族では手が回らない高所や隅々まで、プロならではの作業で手際が良く、磨かれたガラスの光り方までが違うようでした。

かもしたハウスクリーニングは、顧客満足度賞を二〇一八年度・二〇一九年度・二〇二〇年度の三年連続して受賞している。また、同社はNPO法人日本ハウスクリーニング協会に加盟し、優良企業の認定を受けていて、毎年二回、社会貢献の一環としてボランティア・福祉活動を積極的に行って、多数の団体から感謝状が贈られています。

令和五年度管理料納入のお願い

管理料は、毎年、三月末日が納入期限の前納制になっています。令和四年度の管理料及び複数年未納の方は、早めにお納め頂きますようお願い致します。

納入方法

- 一 墓参の折、持参にて納める
- 二 銀行振り込みにて納める

※振り込みの場合の振込先

銀行名 多摩信用金庫 秋川支店
口座番号 普通預金 一五一六二四九
受取人 宗教法人宝清寺代表役員 石井 前稜

三 自動払い込みにて納める

※自動払い込みの場合の手続き方法

- ① 自動払い込みはゆうちょ銀行のみですので、ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方が対象になります。
- ② 自動払い込みご希望の場合は、管理寺務所に指定用紙をご請求頂き必要事項記入後、最寄りのゆうちょ銀行に提出して下さい。
- ③ 引き落としは、毎年四月二十五日になります。

尚、ご不明な点がございましたら、管理寺務所までお問い合わせ下さい。



また、店長の嶋下さんは、NHK-BSプレミアムや瑞穂ケーブルテレビに出演したり、雑誌の取材で、元モーニング娘の石黒彩さんとの対談で、掃除や仕事に対する思いを話されたそうです。

かもしたハウスクリーニングは天然植物洗剤『えがおの力』を中心とした、人・ペット・環境に優しく安全で丁寧な仕事で大変満足しており、今後も、本堂・客殿・寺務所・庫裏のエアコンのクリーニングをお願いし、お檀家の皆様が快適な環境で、ご供養できるようにしたいと思っています。